この印刷物は、環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）に基づく基本方針の判断を満足する古紙配合率100%、白色度70%程度以下の非塗工印刷用紙を使用しています。

いろいろ発見 高砂 さぁ、出発だ！

高砂堀川

再発見地図（さ行）

《絵図番号の説明》

1 トンガリ屋根と6本の鉄脚をもつ旧配水塔（「す」参照）
2 ショッピングセンター サンモール高砂のオブジェ（「さ」参照）
3 旧国鉄高砂線のレールの切り替えモニュメント
4 レンガの煙突を持つお風呂屋さん「梅ヶ枝湯」
5 旧国鉄高砂線の蒸気機関車の車輪のモニュメント
6 平安時代に創建されたお寺「十輪寺」
7 昔ながらのきれいな町家が残る魚町
8 曲線を描く屋根を持つモダンな洋館「松本家」
9 モダンなデザインの「三ッ星化学」
10 賑やかな向こう3軒両隣「12軒長屋」
11 時代を感じさせる「銀座商店街入り口のゲート」
12 銀行として活躍していたギリシャ風の連柱を持つ「高砂商工会議所」
13 南蛮貿易！「天竺徳兵衛のお墓」（善立寺内）
14 高砂の歴史、野路地護岸 のお店「柴出最止屋」
15 貴重な木造洋館「魚町倶楽部」
16 町家の強い見方「高砂市の消防分署」
17 祭りまで出番をじっと待つ「屋台倉」
18 藍屋町の「卯建のあるまちなみ」
19 高砂の名産、焼き穴子のお店「下村商店」
20 よく手入れされた立派な倉が並ぶ「松本家」（「し」参照）
21 むかしながらの重厚な町家「工楽邸」
22 昔の映画館、東照館の一部残る「レンガ壁」
23 通りの中にお宮を持つ「西宮町の辻広場」
24 焼き板を使った塀を設けた「東宮町の通り」
25 東宮町の「恵比寿神社」
26 相生の松でも知られる「高砂神社」
27 レンガ倉庫
28 高砂港周辺の「漁村のまちなみ」
29 港の先端に建つ美しい建物「大崎邸」
30 昔の町家の様子がよく分かる「花井邸」
31 昔あった堀にかかっていた「稲荷橋」
32 東から高砂に入る時に通る「永楽橋」
33 三菱製紙高砂工場の「レンガの建物」
34 申義堂が創設期から明治12年まであった場所（「そ」参照）

さぁ、でかけようサンモール！

山陽電鉄 高砂駅から堀川周辺地区に向かう道沿いに、ショッピングセンター サンモール高砂があります。

昭和51年創業と歴史は古く、東播地区で最初のモール型ショッピングセンターとして誕生しました。太陽の広場に設置された屋外のエスカレーターは当時としては目新しいものであり、エスカレーターに乗るために長蛇の列ができたそうです。その後プールなどもでき、現在も地元の方々に親しまれています。（位置番号2）

しら壁と三角屋根の続く道！

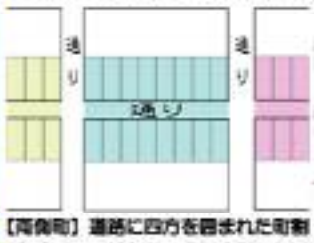
高砂町を南北に貫く大通りの東側に白壁の続く立派な蔵が見えます。祝いの時に使う食器やお膳を収納する納戸として、昔から使われていたこの蔵は壁の厚みが30cmもあり、納戸の中にコップ1杯の水を入れて密封すれば、大事にも耐えると言われる重厚な作りとなっています。港に近いこの辺りには、弁当の荷を保管するための蔵も多く存在しており、米穀備蓄のための国事倉と呼ばれるものもあったそうです。（位置番号20）

すい位差の圧力使った給水塔

旧帆日町浄水場配水塔は、六本の鉄脚に支えられ、異人館風のトンガリ屋根を持つ高さ33mのタンクです。これは、加古郡高砂町がはじめて上水道を敷設した時に建設されたもので大正12年に完成し大正13年1月1日より給水をスタートしました。

昭和41年7月に現役を引退し現在は、国の登録文化財に指定され市の水道敷設のシンボルとして保存されています。（位置番号1）

せんじんの英知が見える区画割り

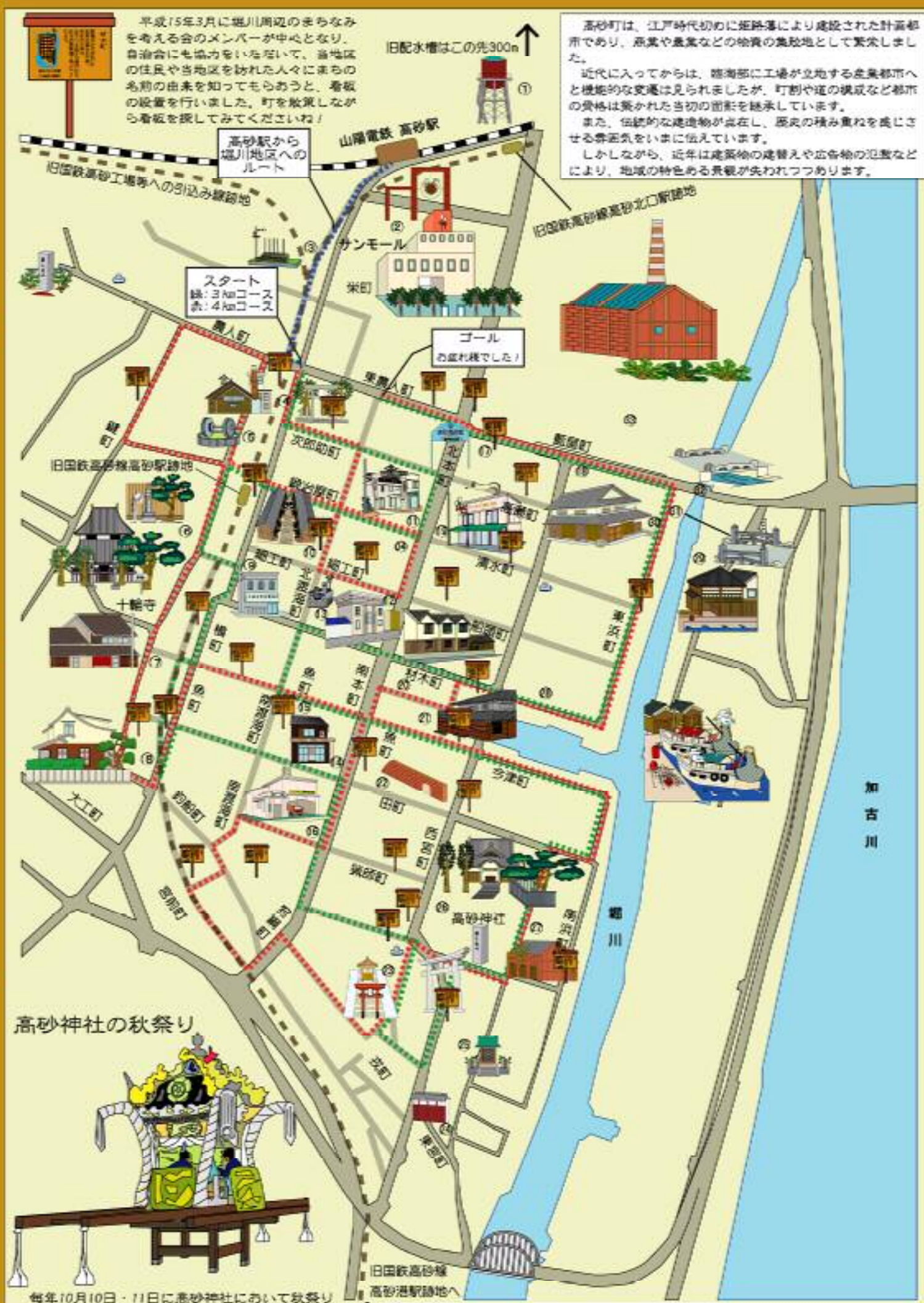


【南側町】通路に四方を囲まれた町割りとするのではなく、会話や様々な活動が営まれる通りを挟んだ町割り。

高砂町は加古川が播磨灘に注ぐ河口の砂州上にあり、江戸時代には廻船落の港町として栄えていました。碁盤の目のように整然とした町割りと町名からは、船大工がいた「大工町」や、船大工が使うクギを作る職人がいた「鍛冶屋町」など、当時の様子を伺い知ることが出来ます。また、通りをはさんだお向かいさんと同じ町になるように、通りをはさんだ「両側町」の町割りがなされています。（町名を参照）

その昔、庶民が学んだ 申義堂！

申義堂は、江戸時代、廻船落の儒学として、庶民の教育を目的に、大年寄岸本吉兵衛の協力を得て、港を町北本町に創設された学問所でした。明治4年（1871年）に申義堂は廃校され、建物は加古川市東神吉に移築されました。その後、解体された部材の一部は現在は高砂市で保管しています。申義堂では、美濃部達吉の父で医師の秀芳が教授として教育にあたっていました。（位置番号34）



高砂町は、江戸時代初めに姫路藩により建設された計画都市であり、商業や農業などの物資の集散地として繁栄しました。

近代に入ってからは、臨海部に工場が立地する産業都市へと機能的な変遷は見られましたが、町割や道の構成など都市の骨格は築かれた当初の面影を継承しています。

また、伝統的な建造物が点在し、歴史の積み重ねを感じさせる雰囲気をいまに伝えています。

しかしながら、近年は建築物の建替えや広告物の氾濫などにより、地域の特色ある景観が失われつつあります。

高砂神社の秋祭り

毎年10月10日・11日に高砂神社において秋祭りが行われます。

屋台の練り合わせのほか、昔から名高いのが船渡御神事（3年に一度）で、播州三大祭りの一つとして「播州名所巡覧図絵」にも「美船萬千の提灯に月星の光を奪う」と記されています。宵宮の10日、神社を出立した神輿が町内を練り歩いて船着き場に集結すると、締め込み姿の若衆が水中に入り、神輿を頭上に支えて御座船に渡し、船渡御が始まります。高張り提灯を掲げた供奉船を従えた御座船が沖の若者たちに支えられて、港に向かい、さらに神社へと遷御されていきます。その醸しだす幻想的な雰囲気は、やはりこの秋祭り一番のクライマックスです。

（参考資料:高砂町史誌）

堀川周辺地区の散策ルートを設定しました！

堀川周辺の素敵な場所や建物を、ゆっくり見ながら歩ける“堀川周辺散策ルート”を設定しました。

ルートは2種類！3kmコースと4kmコース。各ルートは同じ場所を一部通りますが、それぞれ見所一杯のルート設定をしていますので、この絵地図と共に、新たな歴史発見の旅に出掛けてください！

約3kmの散策ルート

約4kmの散策ルート

制作 まちの再生デザイン室
発行 高砂市まちづくり部都市計画課 0794-43-9033(直通) 製作年月日 平成17年7月29日

この地図は、高砂みなとまちづくり構想の実現に向けた取り組みの一環として作成しました。